

2026年度 授業改善アンケート第1Q「教員コメント（学生に対するフィードバック）」

No.	講義名	期間名	氏名	教員コメント
1	日本事情	1 Q	佐藤 恵利	留学生が対象なので、詳細もわかりやすく明記するよう工夫をしたが、アンケートでは「わかりやすい」というコメントもあったので今後も工夫をしながら授業づくりをしていきたいと思います。日本事情は毎年変化します。時代の変化に合わせて、伝える内容も更新し、学生が興味を持てるような授業をしていきたいです。
2	日本史	1 Q	及川 琢英	アンケート結果を踏まえて授業をより良いものに改善していきたい。
3	基礎英語Ⅰ（M・信濃）	1 Q	信濃 吉彦	概ね好評価の要で、胸をなでおろしております。英語に対する苦手意識を少しでも解消できればと考えております。
4	基礎英語Ⅰ（M・岡島）	1 Q	岡島 徳昭	授業理解に貢献する学生が若干名いるようなので、できる限り容易な英文を用いた授業を心掛けたい。
5	基礎英語Ⅰ（M・石田）	1 Q	石田 曉子	授業開始時の学生間の英語習得度に大きな隔たりが感じられました。その差を最後まで埋められなかったことが残念です。
6	基礎英語Ⅰ（M・井坂）	1 Q	井坂 肇	授業の理解度、満足度は概ね良好であった。今年度からテキストを変更し、演習の量を増やした。演習の授業なので、各学生の語学力に応じた対応を取れるようにした点も評価してもらえた。一方、中間・期末テストの成果を確認すると、十分に理解できてはいないことが分かった。年々英語の学力が下がっているのので、基礎の徹底に時間を割かないといけないと思いました。
7	基礎英語Ⅰ（SDA-西崎）	1 Q	西崎 毅	「授業満足度」「シラバス等の説明」「話し方」「授業の進め方」「板書等」「教材の適切さ」「理解度確認」「興味関心」「熟意」は「適切だった・そう思う」以上が100%でした。「内容の理解」は96%が「理解できた」以上でした。「英語が分かりやすく今までの中で1番理解できました。」「生徒に合わせて授業を進めてくれたり、毎回新しいことを学んだらすぐに質問タイムにはいるので分からなかったところをすぐに聞けるので分からないを放置しないですぐに理解することができました。」「課題や小テストがあったので復習もできて良かったです。」「一人一人の理解度に合わせて、質問の時間を適宜取ってくれたのがありがたかった。」「難しい内容の授業でも、「大丈夫、できる。」など元気づけてくれる言葉を沢山生徒にかけてくれた。」「文系マンやお菓子での体を張った説明などとても楽しかった。」「基本的なことからしっかり丁寧に教えてくれるから自分は何が理解できていないのかが明確になり、質問することができた。」「毎時間案いめる内容を考えてくれていて英語の授業がとても楽しかった！」「分からないところがあった時に聞きやすい授業の雰囲気でもとても助かっています。」「宿題など、自主的に学習ができるのがよかったです。」「都度質問を受け付けてくれたり、分からないところを聞きやすい雰囲気がとても良かったです。ありがとうございます！」「わかりやすいです。」「今までにないくらい、分かりやすく、英語が楽しくなりました^^」「先生なりに教え方を工夫してくれて、少しの疑問でも優しく答えてくれた。」「わからないことが聞きにくい状況でも定期的に見回ってくれた。」「高校でややふやになっていた点も詳しく知れて理解度が十分に高くなったと感じた。」等の意見を励みにさらなる授業改善に努めます。
8	基礎英語Ⅰ（SDA-宮嶋）	1 Q	宮嶋 達也	アンケート結果、多くの皆さんが「英会話中心の活動が楽しかった」「実際に話すことで英語が使いやすくなった」「友達とのコミュニケーションが自信につながった」と答えてくれました。授業中のアクティビティやミニゲームについても、楽しみなが学べたという声が多く寄せられました。また、「英語への興味が生まれた」「以前より口にしやすくなった」「実践的な演習が身になった」「意味が伝わるように工夫することで表現力が伸びた」など、英語を使うことへの心理的ハードルが下がり、アウトプットの量と質が向上したという意見が多く見られました。授業の目的である「実用的な英語力の育成」に向けて、皆さんが主体的に取り組んでくれた成果だと感じています。一方で、「回答者の負担に差がある」「回答者の声が小さいと答えが聞き取れないため確認しづらい」など、2つの改善点に関する具体的な指摘もいただきました。これらの意見は今後の授業づくりに活かし、より公平で学びやすい環境を整えていきます。協力して授業を盛り上げてくれた皆さんに感謝します。ありがとうございます。
9	基礎英語Ⅰ（SDA-横田）	1 Q	横田 肇	全体的に昨年度より若干プラスの数値が上がり、極端に不評の項目もなかったのは幸いである。ただ、例年通りであるが、理解が足りない学生が一定数おり、さらなる工夫が必要と思う。その他、解答時間の取り方、注意の仕方、等、学生よりの指摘は改善に活かしたい。
10	基礎英語Ⅰ（SDA・井坂）	1 Q	井坂 肇	授業の理解度、満足度は概ね良好であった。今年度からテキストを変更し、演習の量を増やした。演習の授業なので、各学生の語学力に応じた対応を取れるようにした点も評価してもらえた。一方、中間・期末テストの成果を確認すると、十分に理解できてはいないことが分かった。年々英語の学力が下がっているのので、基礎の徹底に時間を割かないといけないと思いました。
11	ドイツ語入門Ⅰ（M）	1 Q	河田 一郎	「単語の意味も板書してほしい」に関しては、将来的にはパワーポイント等で対応したいと思います。質問等は対面が望ましいのですが、聞きにくい時はチャットで気軽に質問をしてください。「授業開始時間」については、気をつけたいと思います。概ね授業に満足してくれたようで嬉しいです。
12	ドイツ語入門Ⅰ（S・D・A）	1 Q	河田 一郎	「ドイツ語で自己紹介ができる・数字が言える」など、授業中に何度も確認した「達成目標」がいつの間にか達成されていたことを多くの学生さんたちに実感してもらえたようで嬉しいです。「単語や日本語の訳も書いてほしい」に関しては、現在、学生さんに辞書を引てもらっています。が、パワーポイント等で対応したいと考えています。「黒板がわかりづらい」もチャットで気軽に質問をしてくださいます。「返事がほしい」ですが、この度はご心配をおかけして申し訳ありませんでした。なるべく早い対応を心掛けたいと思います。「後ろがうるさくて」についてですが、授業に支障がある場合は注意するようにしたいと思います。
13	ソーシャルワークの基盤と専門職	1 Q	櫻井 美帆子	全体的に反応が良く、質問をしても物おじせず答えてくれるので、授業が進めやすかったです。確認問題は好評なので、今後も続けていきます！
14	医学概論	1 Q	宮嶋 剛司	学生の皆さんの知識や経験はさまざまであることを改めて認識し、今後は一人ひとりが理解しやすい授業となるよう、より丁寧な説明を心掛けていきます。
15	障害者福祉	1 Q	畠山 明子	コメントありがとうございます。配布資料や教材内容の検討等、より理解が深まるように今後も工夫していきたいと思います。
16	福祉サービスの組織と経営	1 Q	大島 康雄	ご要望を承りました。時間割や配当年、他学科との兼ね合いについては組織単位で検討が必要な項目となるのでその点も踏まえて検討ができればと思います。
17	色彩環境論	1 Q	安田 祐造	まずまずのご評価を頂けて安心しています。プロジェクターやマイクの使い方、照明のことなど技術、環境の改善を求める声が多くありました。来年度以降に授業を担当する機会があれば、少しでも改善させたいものです。ありがとうございます。
18	西洋美術史Ⅰ	1 Q	竹内 美帆	授業内容への興味・関心や理解度、全体的な満足度について高い評価をいただくことができました。特に、配布資料やテスト学習用資料が学習に役立ったという意見が多く、引き続き継続していきたいです。また、西洋美術史を体系的に学ぶことができたという評価は、本科目の目的に沿った成果であると考えています。一方で、授業中の指名が一部の学生に偏っているように感じられたという意見もありました。今後は、より多くの学生が均等になるよう指名方法を工夫していきたいと考えています。引き続き、学生の皆さんが主体的に学びながら理解を深められる授業づくりに努めていきます。
19	建築環境Ⅰ	1 Q	佐々木 哲之	この科目は単元ごと学生の理解度を確認しながら授業展開をしていくため、単元ごと学生が理解・確認のため授業内容の整理の時間を設けている。また授業内容はより図の作成作業があったがこれは好評であった。学生はこの科目に非常に興味を持ち授業を受けてくれた。アンケート結果は全体的には概ね満足できる結果であった。授業内容の整理に対する時間と授業進捗のバランスを再度検討していきたい。
20	建築法規Ⅰ	1 Q	佐藤 善太郎	線引きの時間については、今後短縮していきます。理想は宿題にして予習でやってほしいのですが、絶対やらない人がいるので…。今の形の方ががまだやる方です。法規Ⅱは本格的な法律の授業です。嫌がらないで法令集を開いてください。
21	福祉環境計画論	1 Q	佐々木 哲之	受講した学生はこの科目に非常に興味を持ち受講してくれたと思う。アンケート結果は全体的には概ね満足できる結果であった。ただ、最終課題への取り組みに対して時間が不足していた。この事が今後の課題である。
22	経営学総論	1 Q	信濃 吉彦	概ね好評価でしたが手厳しい意見もあり考えさせられます。経営学はボー〜としていると当たり前のことが当たり前でなくなってしまうところがガキです。また、積極的にネットサーフをして、自分の意見を踏まえ、進めやすさと主体性のバランスを意識しながら今後も授業改善していきます。
23	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ経営管理論	1 Q	天野 雅斗	授業全体の満足度や理解度は高く、特に双方向型の授業運営やスポーツを通して社会課題・人権・リスクマネジメントを考える内容について好意的な評価を得ることができた。一方で、一部の学生からシラバス内容と実際の授業内容との相違について指摘があったため、次年度はシラバスの更新・周知を徹底する。また、学生に理解しやすいスポーツ事例を増やし、グループディスカッションやケーススタディをさらに充実させることで、知識の理解だけでなく実践的な思考力の向上を図りたい。
25	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（S）	1 Q	松下・後藤	授業開始3時間は、社会福祉学科DP、履修登録手続き等の理解、学部アセスメント受検を行いました。その後、学術情報の探索（図書情報館の資料確認）、学術レポートの型（学術情報の基本、引用表現、文献リスト作成）、論証手続き（マッピング、5W1H）学習を計9時間、つづけてレポート作成作業4時間となりました。授業では、テキストの基本部分を抽出して教員が解説し、配布プリント（各大学アカデミックライティングセンター資料）にて応用学習を行うとともに、授業外学習として教材（テキスト、プリント資料）の復習、次回テキスト範囲の予習を行い、準備学習時間を高める授業づくりをしました。次年度の授業設計むけて、テキスト、配付資料、授業スライド等の教材や、授業と準備学習（自宅外学習での教材利用）のあり方などについて担当教員にて協議を行い、さらに授業改善を進めてまいります。
26	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（D）	1 Q	三上 いずみ	授業について、率直な意見をありがとうございます。制作時間や進行、説明のタイミングについては今後の改善に活かします。取り組みやすい環境づくりも重視します。一方で大学の授業は、自ら考え進める場でもあります。調べたり共有したりする経験や、時間配分の見直しも学びの一つとして捉えてもらえればと思います。今回の意見を踏まえ、進めやすさと主体性のバランスを意識しながら今後も授業改善していきます。
27	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1 Q	上原 正希	高評価なので、特にいうことはありません。より高評価を得るように努力します。私のアンケートの回答に大切なお時間を割いていただき、申し訳ありません。
28	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1 Q	櫻井 美帆子	社会福祉学科以外の学生に、少しでもソーシャルワークに関心を持ってもらえるような工夫を更に考えていきたいです。関心がない分授業中の学生の私語も増えるかと思います。私語については、前方で授業を行っていると感じないこともあるので、教えてもらえると助かります（密告ではなく、私への助言として）。
29	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	1 Q	大島 康雄	漢字を書くことや読むこと、人と話すことや挨拶をするなどすべてが社会に出てから必要なこととなります。その一環に教科書を読むということを入れています。お気持ちはわかりました。嫌だと思う方もいることは私も理解しているつもりです。
30	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	1 Q	畠山 明子	コメントありがとうございます。配布資料や教材内容の検討等、より理解が深まるように今後も工夫していきたいと思います。
31	精神保健福祉の原理Ⅰ	1 Q	西野 克俊	授業の満足度については、満足できた以上が100%となっており、一定以上ご満足いただけたのかと思います。コメントにおいて、言葉の選び方も好評価いただき、より一層伝え方にも意識を向上したいと思います。今後も引き続き満足いただける授業展開をしたいと思います。

2026年度 授業改善アンケート第1Q「教員コメント（学生に対するフィードバック）」

No.	講義名	期間名	氏名	教員コメント
32	シヤ87クの理論と方法(専門)Ⅲ	1 Q	西野 克俊	授業の満足度については、満足できた以上が96%となっており、一定以上ご満足いただけたのかと思います。 但し、あまり満足できなかった方もおられるため、総合的に満足していただけるよう、さらなる工夫をまいります。 コメントにおいて、実際的事例を用いたことにより、興味の向上につながった方とそうでなかった方もおられるため、もう少し内容の明確化もはかり伝わりやすくなるよう工夫してまいります。 今後も引き続き満足いただける授業展開をしたいと思います。
33	精神障害Ⅱバ リーション論	1 Q	近藤・上原	授業お疲れ様でした。具体的なリハビリ方法については、文献2冊程度になり難しく、国家試験に狙われる部分を口頭で説明していたのですが、理解できていなかったようなので来年度の参考にさせていただきます。 授業ではあくまでも国家試験での頻発内容について触れており、これ以上難しい内容にすることで、単位が取れないのも懸念しています。 今年度の終わりからは実習も始まり、大変と思いますが頑張ってください。
34	精神保健福祉援助演習Ⅲ	1 Q	上原・大島	平均的という感じだったと思います。よりシラパスの説明や授業内容などの強度を高めていきたいと思います。 アンケートにお答えいただき、ありがとうございます。
35	発達心理学Ⅰ	1 Q	蝦名 美穂	毎回、1つは受講学生へ「問い」を提示し、それについて終了時には自分なりの考えをまとめるということを繰り返し行ってきました。 それにより、知識として受け取るだけでなく、それが実際の様子とどのように繋がるのかということを考える練習ができたのではないかと思います。 次年度以降も、このような形で授業スタイルを継続するとともに、学生が「なるほど、そうつながっているのか!」と発見できるような 授業づくりを進めたいと思います。
36	保育原理	1 Q	美馬 正和	授業については、概ね理解してもらえたようであった。対話を中心とした授業を行うよう努力をしたが、伝わったようであった。
37	特別支援教育総論	1 Q	堀川 厚志	全ての項目で適切であるとの評価であった。特別支援教育全般に関して理解が深められるよう提示スライドと資料のバージョンアップを行っていく。また、前時のフィードバックと本時の重要ポイントのフィードバック、小テストをより一層充実させていく。
38	聴覚障害教育総論	1 Q	室岡 弘明	多くの受講生の皆さんに授業内容を理解してもらえたようで安心しました。今後も聴覚障害教育の経験談や視覚的教材を多くしてわかりやすい講義をしていきたいと思っています。
39	精神保健福祉援助演習Ⅰ	1 Q	上原・大島・西野	シラパス、授業時間などについては少し修正が必要ということが理解できました。 授業全体についてはおおむね満足していただけるようなので、継続的に見直し、展開をしていきたいと思っています。 お答えいただき、ありがとうございます。
40	障害児保育Ⅰ	1 Q	坂上 俊樹	受講生全員が、授業内容に興味を持ってくれたようで、ありがたいことです。時間調整に難ありとのご指摘をいただいています。題材の流れで良かれと思って話すことが、脱線となり、時間調整にあくせくすることが多々ありました。うまくやれるよう努力します。
41	人文地理学Ⅰ	1 Q	塩崎 大輔	今年度の人文地理学Ⅰは概ね学生の満足度が高かった。 しかしながら、一部改善が必要な部分もあるため、 来年度はシラパスの説明や授業内容の改善を行う。
42	知的障害教育Ⅱ	1 Q	藤根 収	受講者の学生の皆さんから授業内容の理解について「理解できた」以上が95%、「興味・関心を持っている内容」や「満足できたか」の評価も90%程度は肯定的な評価であり、 全体的に比較的高い評価をいただきました。今回の評価を受け止めつつ、今後も学生にとって理解しやすい、よりよい授業づくりを心がけてまいりたいと思います。
43	カンセリグ 論	1 Q	蝦名 美穂	「人の話をきく」という行為は、一見日常でも行っており、簡単に見えますがそうではないということを受講学生のみなさんには理解していただくことはできないのではないかと思います。ただし、その理解度はこれまでの受講している科目等の関係より、差ができていてもとも言えます。授業を実施するものとしても、それに対しての対応が十分にできなかったことを反省しております。次年度以降は、この点についてはもう少し検討を加えていきたいと思っています。
44	発達障害等教育総論	1 Q	堀川 厚志	各項目については満足している結果であるが、全体的には満足しなかった方が1名程度いる結果であった。1名の適切ではないとする理由については、「後ろでおしゃべりしている人が気になった」とのことである。毎回または講義中常時話をしていたわけではないと思われるが、今後の講義の進め方では注意を促すなど気を付けていきたい。また、提示資料のバージョンアップ等の向上するよう努めていく。
45	日本政治史	1 Q	後藤 啓倫	受講生の皆さん、授業大変お疲れさまでした。 本授業では、歴史を単なる暗記としてではなく、出来事の背景や因果関係に注目しながら理解することを意識して進めてきました。その点が少しでも皆さんに伝わっていれば幸いです。 また、毎回の授業では、皆さんがしっかりとした感想や質問を提出してくれたことで、教員としても大いに刺激を受け、より力を入れて授業準備に取り組むことができました。 いただいたご意見や感想は、今後のより良い授業づくりに生かしていきたいと思っています。ありがとうございます。
46	スケーラシヤ87ク論	1 Q	上原 正希	高評価なので、特にいうことはありません。 より高評価を得るよう努力します。 私のアンケートの回答に大切なお時間を割いていただき、申し訳ありません。
47	子ども家庭支援論	1 Q	杉本 大輔	学生からのコメントがほとんどなのは凡庸な講義の証拠。反省する。
48	デザイ 概論Ⅰ	1 Q	北嶋 洋一	教材に関しては、昨年のアンケートをふまえての再編集が、ある程度は効果的だったようである。但し改善の余地はある。 講義授業は、どうしても一方通行になりがちで、100名の受講生全員の理解度を確認するようなことは難しかった。 次年度は、定期的に小テストやレポートを増やすことを考えたい。
49	CG技法研究Ⅰ	1 Q	北嶋 洋一	アクティブラーニングと講義を合わせた演習の形式は、未だ試行錯誤での進行だったが、学生の理解度は概ね高まったと考える。 教材に関しては、今後は検討を重ね、授業内容を充実させていかなければならないと感じている。 CG概論の際に制作したPowerPoint教材を用いた、知識面の理解度を確認することもレポート以外の評価方法を考えていかなければならないと感じている。
50	イデソリ78デザインⅠ	1 Q	梅田 真紀	全ての設問で概ね肯定的な回答をいただきました。ありがとうございます。一人一人に対して知識や技術のフォローを行う点を、今後も強化し、授業全体の満足度を高められるよう努めます。完成冊子の閲覧方法について、ご意見いただきましたので、検討します。また、出席確認の方法につきまして、パスワードが推測可能ではないかとご意見をいただきました。出席バスカードによる入力後は、実際にその場にいるか必ずチェックをしておりますので、不正はできません。しかしながら、心配されている方もいると分かりましたので、今後は変更したいと思います。このたびは授業評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。多くの皆さんから「課題が面白かった」「自分の個性や趣味を表現できて楽しかった」といった嬉しい声をいただき、また内容への興味・理解度や授業への満足度についても高い評価をいただけたことを大変嬉しく思います。他の学生の作品やコンセプトから学べたという感想は、互いに刺激し合う場づくりを目指してきた身として何よりの励みです。一方で、授業回数に対して課題の完成に時間がかかった点や、選択科目としての負担が重く感じられた点については真摯に受け止め、今後は課題の分量や時間配分、提出要件のあり方を見直し、皆さんがより取り組みやすい授業へ改善してまいります。引き続き、楽しみながら学びを深められる授業を目指していきますので、どうぞよろしく願ひいたします。
51	イデソリ78デザインⅠ	1 Q	赤木 良子	受講者数が当初（R4）に比べ倍増したため一人一人に発言してもらう機会が減ってしまったのが残念でしたが、みなさん熱心に聴いてくれたことに感謝しています。アンケート評価はおおむね好評でしたが、パワーポイントを映写するため教室が暗くなりノートを取りづらかったというコメントや、授業終了が時間ぎりぎりになりがちであったという感想もあったので、今後改善していきたいと思います。
52	東洋・日本美術史Ⅰ	1 Q	吉名 真	授業については概ね適切だったようで安心しました。授業回数の終わりに近づくと疲れが溜まってしまいがちですので、この点は今後しっかり配慮していきたいと思っています。話し方や声の調子はとても良い評価をいただきましたが、加えてより理解しやすい説明ができるよう心がけていきたいと思っています。授業内容については自身で考え実践していく機会をもう少し設け、より理解を深めていけるような構成にアップデートしていきます。
53	美術学特講Ⅰ	1 Q	山腰 雅樹	授業について「わかりやすい」と評価していただき、ありがとうございます。また、レポート課題に関する貴重なご意見もありがとうございます。今後も皆さんが学びやすく、理解しやすい授業を目指して改善を続けていきます。
54	子どもの保健	1 Q	宮崎 剛司	このたびは授業評価アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございます。話し方や授業への姿勢、そして内容への関心について好意的なご評価をいただけたことを、率直に嬉しう受け止めております。一方で、進度がやや速く、扱う内容も多いため消化しきれなかった、というご指摘も真摯に受け止めております。限られた期間で建築史の広い範囲を扱う科目ではありますが、振り返りの時間を設けるなど、無理なく理解を深められる進め方を工夫してまいります。定期試験の実施についても、今後は早い段階で明確にお伝えするよう改めます。手を動かしながら学ぶ機会も引き続き大切に、より実りある授業となるよう努めてまいります。
55	建築史	1 Q	赤木 良子	試験の範囲、試験のスケジュール等についてご指摘をいただきました。ありがとうございます。次年度には、ご指摘いただいた点につきまして、改善し実施できるよう進めさせていただきます。
56	建築計画Ⅰ	1 Q	安藤 淳一	この講座は、本年7月19日(日)に開催される「1級建築施工管理技士(学科)」試験対策講座である。このような国家試験対策講座を有している大学は道内大学でもほぼ皆無であり、本学の特徴的な講座の一つでもある。2024年度から大学在学中でも実務経験がなくとも受験できるように受験条件が緩和、改正されたことから、それにいち早く対応し、この講座をその前年2023年度から開講している。昨年度は、履修者18名が同試験を受験し16名が合格。合格率88.9%と驚異的な結果を残している。この結果を受け、北海道新聞にも記事が掲載され、建築業界でも話題となっており、本学生の就職活動への後押しとなった。今年度も13名が履修しており、本試験での全員合格を目指しおり、その結果に期待したい。
57	施工管理技士演習Ⅱ	1 Q	小立原 健	アンケートへの協力ありがとうございます。いただいたご意見を今後の授業改善の参考にしながら、より分かりやすく学ぶ授業づくりに努めてまいります。資格取得に向けて、継続的に学習へ取り組んでください。
58	二級建築士演習Ⅰ	1 Q	佐藤善・向井	授業内容は、現在タイムリーに進行している都市計画や地域課題を取り上げられるようにしておりますが、今後もより現代の社会状況と都市との関係に眼を向けた内容を取り上げられるよう進めてまいります。
59	都市計画	1 Q	安藤 淳一	授業内容について理解できなかったという学生がおり、もう少し丁寧な説明が必要であったと思います。どういうところが分かりづらかったのかを気軽に発言できるように授業環境づくりが必要であり、もっとグループ活動を取り入れることを検討します。
60	建築士のための基礎数学	1 Q	横山 哲也	さらに学生の理解度を把握するように努める。
61	応用物理	1 Q	伊藤 裕康	教材に関しては、昨年のアンケートをふまえての再編集が、ある程度は効果的だったようである。但し改善の余地はある。 講義授業は、どうしても一方通行になりがちで、100名の受講生全員の理解度を確認するようなことは難しかった。 次年度は、定期的に小テストやレポートを増やすことを考えたい。
62	建築士のための基礎数学	1 Q	横山 哲也	授業の進行速度、課題の提出期限等についてご指摘をいただきました。ありがとうございます。授業内容は、どうしても伝えたい情報が多いこともあり、記録する速度より進行速度が速くなっているとのことですので、情報内容を精査し、進行速度の修正をおこないたいと思います。課題の提出期限に関しては、より前倒しで課題の発表をおこない、提出までの時間を余裕を持たせられるよう改善してまいります。
63	デザイ 概論	1 Q	北嶋 洋一	授業の進行速度、課題の提出期限等についてご指摘をいただきました。ありがとうございます。授業内容は、どうしても伝えたい情報が多いこともあり、記録する速度より進行速度が速くなっているとのことですので、情報内容を精査し、進行速度の修正をおこないたいと思います。課題の提出期限に関しては、より前倒しで課題の発表をおこない、提出までの時間を余裕を持たせられるよう改善してまいります。
64	北国の建築と住まい	1 Q	安藤 淳一	授業の進行速度、課題の提出期限等についてご指摘をいただきました。ありがとうございます。授業内容は、どうしても伝えたい情報が多いこともあり、記録する速度より進行速度が速くなっているとのことですので、情報内容を精査し、進行速度の修正をおこないたいと思います。課題の提出期限に関しては、より前倒しで課題の発表をおこない、提出までの時間を余裕を持たせられるよう改善してまいります。

2026年度 授業改善アンケート第1Q「教員コメント（学生に対するフィードバック）」

No.	講義名	期間名	氏名	教員コメント
65	建築構造力学Ⅲ	1 Q	小笠原 健	この講義は、一級建築士の構造分野に対応する講義である。下級生で履修する建築構造力学Ⅰ・Ⅱの二級建築士レベルのスキルを修得したうえで受講すべき講義であるため、基礎的な建築構造力学の実力を得ている必要があるが、十分にその実力を有している履修学生はほんの僅かであることから、序盤の講義ではその復習を実施している。そのため、本来の建築構造力学Ⅲの講義がタイトとなっており、講義不足感が生じているのは否めない。しかしながら、復習せずに本来のカリキュラムを実施しても到底、理解と修得は困難である状況のため、単位認定されている建築構造力学Ⅰ・Ⅱの講義にて、一層の授業改善をしてもらいたいと切望している。初回講義では建築構造力学Ⅰの範囲での実力判断テストを実施し、その年度の履修者の実力レベルを把握してから、スキルアップのための復習を行っているが、限られた講義数では限界があるため、今年度から、希望学生には講義外の個別補講ならびに個人指導を行っている。今後も履修学生の実力レベルによって、授業改善を行っていく予定。
66	建築の職能と倫理	1 Q	君 興治	倫理という回答の無いような授業の中で相手の気持ちや周りがどのように感じているのか、建築という50年100年という建物を作っていく中で現在の常識と未来の常識を想像して成長してください。 今後は、建築士として活躍していく中で倫理で学んだことを少しでも思い出ししてほしいと思います。
67	中小企業論	1 Q	石山 玄幸	受講学生から高い評価を頂いたことに感謝します。本学において石山が担当する中小企業論という講義は、経営学の基礎を学びながらも、将来の就職活動や企業に入社して社会人になってからも役に立つことを中心に展開しています。経営学の専門科目は、まだ続きますので、ぜひ、他の講義も積極的に受講することを期待します。
68	ｽﾎｰﾌﾟ行政学	1 Q	三嶋 康嗣	例年より履修者が多い分、理解度の確認に苦労した。 最低限取り入れるべき知識は網羅したが、グループワークなど知識を応用する点については学生ごとに熱量の差があった。 より興味をもてる題材を導入していきたい。
69	商法（再）	1 Q	青山 浩之	第1クォーター月2講目 木2講目の科目（再履修）で、履修者9名、平均出席率85％、回答率89％であった。授業スキルの評価は、特にQ2「話し方」Q4「板書等」では好評価を受けた。授業の全体印象に関する評価は、「理解度を確かめながら授業を進める」「授業の内容は興味や関心」については、特に好評価であった。さらにQ10「全体満足」は特に好評価を受けました。「テストは外国人として難しすぎるけど楽しかった」との意見があり、これからも興味や関心を持てるように工夫していきたい。
70	体育史	1 Q	尾西 則昭	学生からの適切なアドバイスありがとうございます。 学生に対しての理解度を踏まえながら行っていないようでしたので今後気をつけながら 取り組んで行きたいと思います。貴重なご意見ありがとうございます。
71	経営分析論（再）	1 Q	石山 玄幸	経営分析論は、本学経営学科における講義の中でも、かなり難易度が高い講義です。特に、数字と計算が伴うところが、苦手という学生が多いですが、本講義を受講して講義内容を理解することで、企業の財務分析ができ、今後、自分が就職しようと思っている企業の財務状況がわかるというメリットがあります。受講生全員が、本講義で学んだスキルを社会人になってからも活用して、企業に利益をもたらすような人材になることを祈念しています。
72	ｺｰﾎﾟﾚｰﾄﾌｧｲﾅﾝｽ論	1 Q	岩立 顕一郎	コーポレート・ファイナンスという企業価値を数量化する科目において、多くの方が興味をもって取り組んで頂けたことは良かったと思っています。 講義資料に関しては、もともと電子化し、CampusXsに登録しております。紙資源の削減だけではなく、見やすさや後々の復習のし易さにも優位性があると判断しておりますので、引き続きこちらを活用していきたいと考えております。
73	ｽﾎｰﾌﾟとﾍﾙｽｴﾀﾞ	1 Q	三嶋 康嗣	部活動に所属するいわゆるスポーツ学生にとって有益な学びになることを 一つの目標として授業展開をしてきた。 知識の導入と確認、その後の実践という流れを用いて 学生がスポーツ現場で活用していけるよう努めていきたい。
74	国際経営論	1 Q	信濃 吉彦	概ね好評価だったので安堵しております。この分野はなかなか難しい内容を含んでいるので授業後もしっかりと自分なりに整理して欲しい。
75	産業社会論	1 Q	山本 一彦	全体的な理解度については概ね良好と受け止めたが、一部とはいえ、理解できなかったという回答があり、今後の課題としたい。また、板書に関しては概念図等の図式化を適宜試みたが、結果からは更に今後の工夫も必要と感じた。なお、試験では留学生の多くが一定水準以上の日本語で解答できており、良好な成績を得ていることに安心している。
76	ｺﾐｭﾆﾃｨ心理学	1 Q	大村 直子	本授業では学生の自律的な対話を重視していますが、授業の文脈を把握しきれない学生への配慮や、長時間集中を持続させる工夫の余地があることを認識致しました。今後は、講義の節目で状況丁寧確認するほか、90分という時間を効果的に活用するため、適宜休憩を設けるなど、学生が無理なく参加できる運営ルールを再構築します。全ての学生が学びを深められる環境作りを目指してまいります。
77	ﾋﾞｼﾞﾅｽ英語	1 Q	石田 曉子	初めて触れるビジネス用語に慣れるには時間が足りなかったようです。もう少し質問をしやすくする工夫が必要でした。
78	ｽﾎｰﾌﾟ原理	1 Q	高井 雅一	全体的には、良い評価をいただきました。グループ学習や問いかけの場面をさらに多くし、改善していきたいと考えています。
79	ｽﾎｰﾌﾟﾋﾞｼﾞﾅｽ論	1 Q	守屋 俊甫	学生参加型のディベートやグループワークを多く取り入れ、積極的に参加できる雰囲気づくりに努めました。多くの学生から満足・理解できたとの評価をいただいた一方、ビジネスとの繋がりより感じたい、発言機会に偏りがある、参加度に応じた評価をしてほしいといった声もありました。今後はグループ編成や進め方を見直し全員が発言しやすい環境を整え、ビジネス的視点との関連を明確に示すとともに、公平な評価に努めてまいります。
80	器械運動	1 Q	廣田 修平	器械運動は普段行方スポーツとは異なる非日常的な運動で構成される特殊な実技授業の一つです。限られた時間の中ではありましたが、受講生の皆さんは自身の技能習得に向けてそれぞれ活動を行うことができていました。教員や指導者を目指す皆さんは本授業での学びを活かして活躍されることを期待しています。
81	ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ	1 Q	橘 春香	デジタルデザインの授業は今回初めて担当いたしました、アンケート結果が概ね好評だったので良かったです。かなり実践的な内容の授業にしましたが、そのこともみなさんの求める知識にフィットしていたようで、良い反応でしたので、来年度はさらに理解度が深まるような授業になるよう心がけていこうと思います。
83	ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟⅠ	1 Q	阿部 裕樹	多くの皆さんから授業内容や説明の分かりやすさ、教材、授業への熱意について高い評価をいただき、大変嬉しく思います。一方で、理解度の面では十分に理解できなかったという意見もありました。 今後は理解度の確認や質疑応答の機会をさらに充実させ、より分かりやすく実践的な授業となるよう改善していきます。引き続き、アントレプレナーシップへの関心を深められる授業づくりに努めます。
84	教職論	1 Q	木村 浩紀	教職の基本的な内容でしたが、出席率や理解度が高く安心しました。教員の仕事や教育実習、採用試験についても、ある程度イメージできたと思います。また、毎回テーマに沿ってチャットで提出していた意見・感想について、次の前半で紹介することで、それぞれの考えを確認することはできましたが、自分たちで新しいグループを作り協議をすることが難しく、協議の幅が広がらずらい傾向がありました。効果的な声掛け等を検討して、自ら動けるような工夫をしていきたいと思います。
85	教育心理学	1 Q	柳内 景太	授業改善アンケートへの協力、ありがとうございます。多くの学生が内容を理解できており、楽しく学べたことが分かりました。一部の学生からは「内容が難しい」「授業の進行をもう少し速くしてほしい」という意見がありました。この授業は多くの学生が理解できることを重視しているため、学生によっては進行が遅く感じたかもしれません。今後も理解しやすさと授業進度のバランスを考え、よりよい授業を行っています。
86	工業科教育法Ⅰ	1 Q	横山 哲也	さらに学生の理解度を把握するように努める。
87	生涯学習概論	1 Q	藤根 収	140名を超える大人数の授業でしたが、学生の皆さんから概ね満足度の高い評価をいただきました。 大人数でのグループワークも実施しましたが、一部参加しにくい場合もあったように思います。 今後実施の仕方でも工夫してさらに改善してまいりたいと思います。